

ワーク・ライフ・バランス相談室

※2021年4月より、ワーク・ライフ・バランス相談は外部委託事業となりました。
相談員は引き続き、7年間にわたり本学で従事された木下氏(シャインスピーク代表)になります。

お困りごとはありませんか? ワーク・ライフ・バランス相談員が悩みごと(仕事と家庭生活の両立、妊娠・出産・子育て、介護、研究室や職場の人間関係等)の相談をお受けします。原則として、ご本人が希望しない限り、個人情報等はどこにも提供いたしません。安心してご相談ください。

問い合わせ・予約先

ワーク・ライフ・バランス相談員
木下 薫

✉ ncu-wlb@shinespeak.page

☎ 090-6397-8826

LINE QRコード



各保育所の紹介

本学では、ダイバーシティ推進の趣旨を踏まえた労働・研究環境等の整備のための施策のひとつとして、4か所の学内・院内保育所を各自運営しています。

さくらんぼ保育所

市立大学・病院
(定員70名)

1歳児クラスと3・4・5歳児クラスで、博物館にて待ち合わせ。お姉ちゃん・お兄ちゃん達の「はないちもんめ」にルールも分からずに自ら混じっていくちびっこ姿や、段差をちびっこが降りるのを抱っこして手伝う大きい子の姿も見られ、微笑ましい限りです。

0歳児から就学前まで、大きな年齢差のある子ども達が一緒に生活している、さくらんぼ保育所。乳児の子ども達は、大きなお姉ちゃんやお兄ちゃんが遊んでいるのを嬉しそうに目で追ったり、側に寄っていたり。また幼児の子ども達は、自分より小さな乳児の子ども達の手を引いたり世話をしたり。そんな、年齢を超えての子ども達の関わりを日常的に見られることの大切さを、保育者としても感じているところです。



ぽっぽ保育所



東部医療センター
(定員33名)

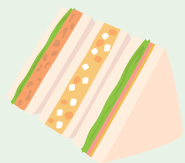
ぽっぽ保育所の日～クリスマス会～



「サンタくる?」とクリスマス会が待ち遠しい子どもたち。クリスマス会当日は、廊下から「リンリン」と鈴の音が聴こえ、見に行くとサンタさんを発見!「こんにちは」などと話しかけサンタさんに興味津々。袋の中からプレゼントが出てくると「やった!」と大喜びで、子どもたちにとって忘れられない一日になりました。

くさのみ保育所

西部医療センター
(定員45名)



「サンドイッチクッキング」
1・2歳児混合のひまわりのお部屋では、子ども達の「サンドイッチたべたい!」のリクエストで、おやつに保育者や栄養士と一緒に作ることにしました。それぞれ、マヨドレを塗ったり、ツナやキュウリを挟んで、特製サンドイッチの出来上がり。自分で作ったのは格別に美味しいようでパクパク食べ大満足でした。また作って食べたいね。

ぽんぽこ保育所



みどり市民病院
(定員15名) ※0・1・2歳児



子ども達の大好きな「おべんとうバスのかくれんぼ」という絵本をテーマに親子イベントを企画しました。当日は全家族に参加して頂け、個々の成長は勿論、普段なかなか見ていただくことが出来ないお友達との関わりも見えていただくことが出来ました。保護者の方からも「楽しかったです。次はいつですか?」等、喜ばしい感想も頂き、現在、次の企画を計画中です。

TOPICS

2023年4月より、データサイエンス学部新設。また、みどり市民病院・みらい光生病院が本学の医学部附属病院になりました。

名古屋市立大学ダイバーシティ推進センターニュースレター

名古屋市立大学ダイバーシティ推進センター
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL:052-853-8593
E-MAIL:diversity@sec.nagoya-cu.ac.jp
http://www.nagoya-cu.ac.jp/about/gender/



Vol.24
2024.Mar.

名古屋市立大学ダイバーシティ推進センター長からのメッセージ

「ダイバーシティ推進センター」は、2022年4月に「男女共同参画推進センター」から名称を変更し、活動しています。人間の多様性を重んじ、多様な人々が活躍することが重要であり、それが大学の活力や創造力を向上させるとの考えのもと、男女共同参画の実現、次世代育成の支援、障害者・高齢者・外国籍の人々の学びと就労の推進にも力を入れています。多様な個性を持つ学生の学びの環境を整えるとともに、教職員の労働環境を整え、ワーク・ライフ・バランスの実現できる環境整備に取り組んでいます。

センターでは、「ダイバーシティ推進奨励賞」を毎年募集しており、その取り組みを評価した上で表彰しています。来年度以降も引き続き取り組んでまいりますので、市大病院群を含め、多くの方々からの応募を楽しみにお待ちしております。また、育児や介護などで研究に十分時間を割くことが難しい教員を対象に、「研究支援員制度」を設けていますので、この制度も是非活用して頂ければと思います(書類選考があります)。

本学のすべての教職員と学生がダイバーシティに対してさらなる理解を深め、仕事・学修を含めたそれぞれの生活が充実するように、セミナー・講演会の開催や、教養教育の中にもセンターが担当する科目を設けています。センターの事業内容につきましては、大学のHP等でも詳細に報告しております。そちらも合わせてご覧いただきますようお願い申し上げます。



センター長 窪田 泰江
(看護学研究科教授・学長補佐)

第11回ダイバーシティ推進奨励賞表彰式・事例報告会

1月31日に、第11回ダイバーシティ推進奨励賞表彰式・事例報告会を開催しました。

本件は、多様性を尊重し様々な人材が活躍できる社会の実現に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員、学生、卒業生に対して、学長から表彰を行うもので、今年で11回目となりました。

受賞者
〈研究・教職員部門〉
東部医療センター 消化器内科「女性消化器内科医師における内視鏡手技関連疲労度とキャリア支援の検討」
〈研究・学生部門〉
性生殖看護学・助産学ゼミ「X世代からZ世代における出産・子育てに関する価値観の実態」
土居 彩葉「オールジェンダートイレの配置に関する研究」
〈活動・教職員部門〉
みどり市民病院 グリーン・ハート「多様な個性をもつ職員が協働し、生き活きと働き続けられる職場づくり」

今回は4件が受賞となり、賞状と花束の授与及び後日記念品の贈呈がありました。

受賞後の事例報告では、ダイバーシティ推進にむけてさまざまな角度から行われた研究や活動の報告に、郡理事長をはじめ浅井学長、鈴木事務局長も非常に熱心に耳を傾けられ、今回の研究および活動について、この場での発表にとどまらずどんどん発信してほしいとお話くださいました。今後のさらなるダイバーシティの推進に向けて、時にはユーモアを交えながら活発な意見交換が行われ、大変意義のある会となりました。ダイバーシティ推進奨励賞は、本学卒業生も対象となっております。本学ホームページやポスターでもご案内しますので、みなさま奮ってご応募ください。



2023年5月1日現在、本学の女性教員比率は 25.6% です。

研究支援員制度

利用者の声

出産、育児、介護等により研究時間が限られている研究者の研究活動を維持・促進することを目的として、毎年度、研究支援員を配置しております。令和5年度は男性1名、女性2名の研究者が採択されました。本制度をご利用いただいた皆様の声をご紹介します。

医学研究科放射線医学 講師 中川 基生

AIの研究には大量の学習用データ、教師用データが必要なのですが、研究室や院内にいる時間がかざられているため、収集することに困難を感じていました。研究支援員を配置していただいたことで研究を進めることができました。ありがとうございます。

医学研究科臨床薬剤学（東部医療センター）助教 和知野 千春

子育てと研究の両立が難しい中、隙間時間でしか研究に取組めませんでした。支援員制度のおかげで、申請手続きやデータ処理を進めることができました。支援員の今後の活動へのステップになっていれば嬉しく思います。ありがとうございました。

看護学研究科 助教 藪田 綾

今年度初めての制度利用でしたが、研究支援員制度を活用させていただいたことで支援員からの研究補助を受けることができ、研究に集中する時間確保といった研究環境を整備できただけでなく、研究に取り組みながらも、子供や家族との時間も確保することができ、働く親が仕事と家庭のバランスの取れた生活をおくるために心強い制度だと感じました。

ダイバーシティ推進セミナー 会場及びオンライン（Zoom）開催
「異文化コミュニケーション」

10月26日にダイバーシティ推進セミナーを開催し、学生・教職員あわせて88名の参加となりました。講師として、豊通ヒューマンリソース株式会社より山邑英之氏をお迎えいたしました。

セミナーでは、様々な国籍の方々と一緒にお仕事をされている立場から、異文化を理解するための「3つの（技術的、文化的、心理的）壁」についてお話いただきました。

セミナー後は「普段のアカデミックな講義と違って、ビジネス的な観点から話を聞けて新鮮で楽しかった」「異文化コミュニケーションとは、相手に伝えたい、相手を知りたいという気持ちを前提に、様々な文化的背景を超えたコミュニケーションなのだと知った」「理解することと、自分で出来るということは、違うということを学んだ」「最も印象に残ったことは、母語が異なる人とコミュニケーションをとるときに、拙いとしても相手の言葉を使って伝えた方が相手の心に響くということだ」等の感想が寄せられました。異文化コミュニケーションにとどまらず、これからの日常生活にも活かせる内容となりました。



ワークライフバランス講演会 オンライン（Zoom）開催
「働き方は今後どのように変化・進化するのか」

1月16日にワークライフバランス講演会をZoomによるオンラインで開催し、学生・教職員あわせて79名の参加となりました。講師として、本学経済学部卒の松久晃士氏をお迎えいたしました。

セミナーでは、なぜ今男性の育休取得推進が求められるのかという切り口で、その背景について、日本社会の動向から今後期待されるであろうマネジメントにおける役割の変化について等、幅広い内容についてお話いただきました。

開催後のアンケートでは、「男性育児休業経験者としてもとても共感できる内容だった。文化的に男性の育休がもっと取りやすくなればよいと思う」「チャットを用いて意見を伝える機会があったことで、テーマをより深く考えることができたと思う」「働き方改革を進めたいと考える職員がいても、それを阻む要素は何だろう、何をすれば進められるのか、ということを考えてさせられた」等の感想が寄せられ、ワークライフバランスについてあらためて考える機会となりました。



学生と研究者の懇談会 オンライン（Zoom）開催

12月13日に、学生と研究者の懇談会を開催し、学生と教員あわせて9名の参加がありました。

前半は、2グループ（教員2名×学生3名）のグループトークを実施し、自己紹介と教員からの話題提供後、意見交換を行いました。

後半は、各グループトークの内容を参加者全員で共有し、教員への質問と意見交換を行いました。研究者のワークライフバランス、大学院に進んだ後について、コロナ禍での生活の変化等、様々な質問や意見が飛び交い盛り上がりました。

参加者からは「先生方のWLBなど、なかなか普段聞けないようなお話が聞けて良かった」「ワークライフバランス、出産からの観点で研究者という職業を考えたことがなかったので学ぶ事が多かった」「研究者を目指しているが、自分の中でモヤモヤとしていたものが少し晴れたところがあった」等好評で、学生と教員の距離が近くなるイベントとなりました。



教養教育科目「大学特色科目」の紹介

ダイバーシティ推進センターでは、学生が社会的性差（ジェンダー）と平等について理解し、考え方や行動に生かすことができるように、平成24年度から「大学特色科目」として、前期と後期に1科目ずつ開講しています。

前期

地域社会で活躍する女性

ジェンダーについて総合的な知識、情報を得るとともに、企業や自治体における男女共同参画への取り組みや女性経営者たちの経験を通して、社会における新しい働き方を学ぶ科目です。ジェンダーの固定的役割にとらわれることなく、柔軟な発想と多様性の尊重により、企業や自治体における男女共同参画をふまえた働き方を考える機会となりました。



グループワークの様子

第1回（4/14）	ダイバーシティ推進センター 副センター長 窪田泰江	ガイダンス
第2回（4/21）	名古屋大学大学院 法学研究科 教授 田村哲樹	ジェンダー論
第3回（4/28）		男性の家庭参画
第4回（5/12）	名古屋市スポーツ市民局 市民生活部男女平等参画推進室	名古屋市の 男女共同参画
第5回（5/19）	名古屋市総務局 職員部人事課	名古屋市内における 女性の活躍（1）
第6回（5/26）	名古屋市子ども青少年局	名古屋市内における 女性の活躍（2）
第7回（6/2）	株式会社エステム 代表取締役社長 塩崎敦子	企業における 女性の活躍（1）
第8回（6/9）	社会保険労務士法人名南経営 特定社会保険労務士 宮武貴美	企業における 女性の活躍（2）
第9回（6/16）	リゾートトラスト株式会社 人事企画部 吉田幸代	企業における 女性の活躍（3）
第10回（6/23）	中北薬品株式会社 総務人事本部 森有紀子	企業における 女性の活躍（4）
第11回（6/30）	株式会社キャリアビジョン 代表取締役社長 野村恵美子	企業における 女性の活躍（5）
第12回（7/7）	一般社団法人中部SDGs推進センター 副代表理事 百瀬則子	企業における 女性の活躍（6）
第13回（7/14）	特定非営利活動法人参画プラネット 常任理事 重原惇子	男女共同参画の推進
第14回（7/21）	ダイバーシティ推進センター センター長 窪田泰江 ダイバーシティ推進センター 副センター長 久保田健市	グループワーク
第15回（7/28）		全体討論

後期

ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ

名古屋市大の7研究科と大学病院の教職員が理系・文系という学問の多様性を超えてダイバーシティについて多面的に講義を展開しています。学生はその学びをもとに、ダイバーシティとワーク・ライフ・バランスの観点から今の自分になにができるのか考え、グループで意見交換を行いました。



セミナー受講の様子

第1回（9/29）	ダイバーシティ推進センター 副センター長 久保田健市 名古屋市人権施策推進室	ガイダンス/ 同和問題（部落差別）の正しい理解
第2回（10/6）	理学研究科 准教授 佐久間紀佳	ジェンダーと科学
第3回（10/13）	医学研究科 教授 岩崎真一	医療における ワークライフバランス
第4回（10/20）	薬学研究科 講師 安部賀央里	大学における ダイバーシティ
第5回（10/27）	病院 診療技術部リハビリテーション技術科 技師長 堀場充哉	仕事人と 家庭人の両立
第6回（11/3）	芸術工学研究科 教授 太幡英亮	Space for Diversity
第7回（11/10）	看護学研究科 准教授 大橋麗子	子どもの権利と子ども虐待
第8回（11/17）	看護学研究科 講師 田中泉香	妊娠・出産・育児に関わる 女性の健康と支援
第9回（11/24）	病院看護部 看護師 古川陽介	男性看護師から見たダイバーシティ ー看護における男性・女性の協働ー
第10回（12/1）	経済学研究科 教授 山本陽子	ワークライフバランスと 企業業績
第11回（12/8）	人間文化研究科 准教授 宮下さおり	職業におけるダイバーシティ
第12回（12/15）	人間文化研究科 准教授 宮下さおり	職業と家庭生活の調和 ーオランダモデル
第13回（12/22）	経済学研究科 教授 藤田菜々子	少子化とワークライフバランス ー1930年代のスウェーデンの経験ー
第14回（1/19）	ダイバーシティ推進センター センター長 窪田泰江 ダイバーシティ推進センター 副センター長 久保田健市	ダイバーシティ推進センター 企画への参加
第15回（1/26）		グループワーク